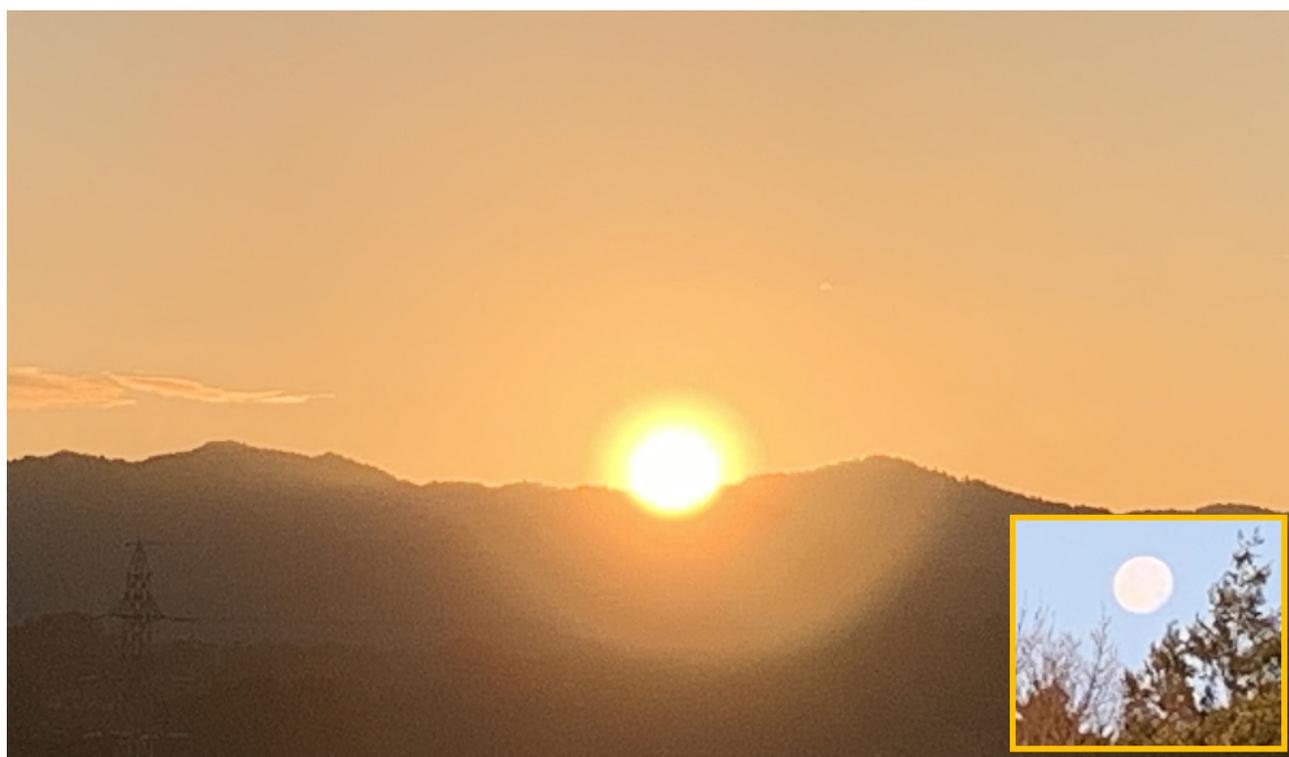


# 滋賀森林インストラクター会

会報・第 27 号      2021 年 1 月 02 日



湖南アルプスから昇る初日の出(2021 元旦.7:24 大津市伽藍山の麓から)  
西の空には伽藍山に沈もうとしている十六夜の月

## 目 次

- |                            |              |
|----------------------------|--------------|
| 1. 「子ども森林インストラクター認定プロジェクト」 | 2～4 頁        |
| 佐々木 建雄、下川 茂                |              |
| 2. 「子ども水源の森サミット」「プレ植樹祭」    | 高田 裕美子 4～5 頁 |
| 3. 2020 年度定例研修会の総括         | 小西 民人 6～7 頁  |
| 4. 緑の少年団 指導者研修/個別指導        | 事務局 8 頁      |
| 5. 新入会員の紹介                 | 9 頁          |

## FIJ子供森林インストラクター認定プロジェクト活動について

(文部科学省「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」)

佐々木 建雄

京都会の会長であり、全国会の理事である篠部氏から電話を受けたのは7月、梅雨の頃であった。コロナ禍にあって、行動を制限された子供たちが受けている強いストレス解消のため、文科省が表題のような事業を企画、公募した。FIJも事業に参画することになったので滋賀も参加しないか、という趣旨のお誘いであった。

コロナ禍で抑圧された子供たちを、自然の中でのびのびさせてやりたい、という趣旨に異論の余地はなく、国がバックの事業というのも魅力的ではあったが、裏を返せばそれなりの責任が伴うこと、参加者をどのように集めるか、どれだけ集められるか、会員の同意と協力が得られるか、コロナ禍の



影響がどの程度かなど、不安材料も山ほどあった。しかし、このような経験をできる絶好の機会を逃がしてはもったいない、という気持ちが強く、役員会へはなかば事後承諾の形で早々と実施会場を決め、滋賀の参加を表明した。

事業の概要は以下の通り。

- 実施期間 2020年10月～2021年3月（実施日は2021年1月を除く、毎月第2日曜日）
  - 実施場所
    - 1回目：10/11 湖南アルプス自然休養林一丈野地区（森の実りの季節を体験）
    - 2回目：11/8 比叡山（1200年の山林の歴史を知る）
    - 3回目：12/13 湖南アルプス自然休養林一丈野地区（初冬の森の自然観察）
    - 4回目：2/14 湖南アルプス自然休養林一丈野地区（冬の森を体験）
    - 5回目：3/14 近江舞子雄松崎（白砂青松を歩き、びわ湖の広がりを感じ）
- （注）青字は実施済み
- 組織運用形態 日本森林インストラクター協会関西支部/滋賀地区指導員として活動。  
（指導員は関西支部の会員として入会登録が必要）
  - 必要書類 実施計画書：各プログラム実施前にFIJ本部に提出し承認を受ける。  
実施報告書：各プログラム終了後に活動内容を、写真を添えて提出。  
経費申請シート：謝金、交通費、その他経費の申請書を提出。  
動静表：プログラム本番日のタイムスケジュールを提出。  
アンケート：プログラム毎に実施前と実施後のアンケートを取り、原本を郵送。

以上が事業の概要であるが、スタート当初は手続きや書類作成の要領がわからず、右往左往するばかりでストレスも相当溜まったが、3回目のプログラムを終わった今は、仕事の手順も頭の中で整理できるようになり、何とか5回を全うできる目途が立った。

心配していた参加者数も、各回それぞれ20名前後（子供半数以上）を集めることができ、

事業としての体裁を保てホッとしている。

そして、子供たちの元気な活動を目の当たりにし、「楽しかった」「また参加したい」などの声を聞くときが、今までの苦労を忘れ、何より嬉しい時である。

## <事例>

### 子ども FI プロジェクト事業『治山の森』上田上一丈野国有林②

～初冬の森の自然観察、森の恵み体験～

下川 茂

去る令和2年12月13日(日)に、大津市の「上田上一丈野国有林」において「初冬の森の自然観察、森の恵み体験」を実施したところ、県内の各地より子ども12名とその保護者7名が参加して、有意義な1日を過ごしました。

今回、次の事柄を事業のポイントにあげて取り組みました。

- ① 紅葉から冬支度する「たまみずきの道」の自然観察
- ② ネイチャーゲーム「秋の色合わせ」(オリジナルカード)
- ③ 自然の素材を生かしたクラフト制作
- ④ 治水のシンボル「オランダ堰堤」(デ・レーケの遺産)
- ⑤ 今も続く田上山復旧への取り組み(卒業記念植樹)



事業の取り組みの概要は、以下の通りです。



まず初めに、自然休養林内の「たまみずきの道」を歩きながら、赤く色づくたまみずきの実を始め、花崗岩の貧栄養土壌の自然環境下に自生する主な植物の解説をしました。その際には、ネイチャーゲーム「森の色合わせ」(秋バージョン: 滋賀会オリジナル)と既存の「フィールドビンゴカード」の2枚のカードを予め配布し、子どもたち自らが自然界の様々な色や事物を探す活動を取り入れました。

このことで、観察に「遊び」の要素が加わり、自然の織り成す妙に、興味深く楽し気に取り組む姿が伺えました。



また午後からは、自然の素材をもとに、「ネイチャークラフト」作りを行いました。暖房のない屋内での作業でしたが、子どもたちは終始熱心に活動し、それぞれがオリジナリティを發揮して思い出の作品を作り上げました。

最後には、「日本三大はげ山」とも言われてきた「田上山」の治山・治水のシンボルとして当地に130年前に作られ、今も立派にその役目を果たしている「オランダ堰堤」と植林活動を通して、先人たちの努力の足跡を学びました。

子どもたちは、時代が変わってもこの弛まぬ努力が連綿として続けられている事実を前回（10/11）と今回の事業を通して知ることが出来たのではないかと思います。

## 「子ども水源の森サミット」「秋のプレ植樹祭」

高田裕美子

2020年11月22日、甲賀市みなくち子どもの森にて、午前の部では緑の少年団の活動交流会「こども水源の森サミット」、午後からは一般の方対象の「秋のプレ植樹祭」が開催され滋賀会からは8名が参加しました。

「こども水源の森サミット」では、まず晩秋の森の自然観察と植樹のサポートをしました。今回植樹に使用した苗木は令和4年の全国植樹祭に向け「苗木のホームステイ」で育成している苗木を、琵琶湖の水から水道水にする過程で発生した琵琶湖産の“土”と“ヨシチップ”を使って植樹しました。子どもたちは大きく育つように心を込めて植樹してくれました。



植樹・自然観察から会場へ戻り、県内外の緑の少年団とのリモート交流会です。交流会は他地域の活動を学ぶことで今後の活動の充実につなげる試みで、大阪府・兵庫県・京都府・滋賀県の少年団の活動発表がありました。

その後「緑のクイズ大会」が催され、チー



ム対抗だったこともありとても盛り上がりました。  
最後に音階を奏でるペン立ての木工工作を指導してサミットは終了しました。音の鳴るペン立てはどう組み立てるかで音階が変わるので、音を想像しながら製作しました。

午後の部「プレ植樹祭 in みなくち子どもの森」は全国植樹祭しが関連イベントです。

このイベントの参加者は県民や滋賀県に通勤通学されている方とご家族で、440名の応募者のなかから抽選で選ばれた300名です。

滋賀県知事・甲賀市長のご挨拶、緑化功労者や学校緑化コンクールなどの表彰式後に、参加者は「植樹と木工体験コース」、「植樹と林業体験コース」に分かれました。滋賀会は「植樹と木工体験コース」を担当しました。



木工体験は、大王松の松ぼっくりをツリーに見立てて、思い思いのデコレーションをしてミニクリスマスツリーを作りました。

その後の自然観察では、木の実や冬芽など晩秋の森を感じてもらいながら案内し、途中の植樹会場では、鍬を使って植穴を掘ることから体験してもらいました。

家族ごとにコナラかクヌギを琵琶湖産の“土”と“ヨシチップ”を使って植樹をし、びわ湖水源の森づくりを体験してもらいました。



1日に2つのイベントは駆け足で大変でしたが、たくさん子どもたちとご家族に貴重な時間を過ごしてもらえたと思います。



## ～2020年度の定例研修会を総括して～

研修担当 小西民人

今年度の定例研修会は偶数月に開催する年度で、年4回をめぐり、新規の場所や昨年度調査した鈴鹿の森も取り入れて計画しました。ただ、コロナ対策と季節・天候を考慮して、下見や本番時期を柔軟に手直ししながら実施することになりました。参加者は例年通り、ほぼ固定状態ですが、新規加入者もあり、今後、一歩前進できる研修会が持てるといいなあと思います。

なお、来年度は近畿連絡会研修会や県外研修年にも当たり、ますます会員の皆さんの協力が必要となります。研修の場所や時期の提案をよろしくお願いします。

以下、4回分の研修の一部写真を載せます。詳細はHP掲載の報告をご覧ください。

① 第1回 4月29日(水・昭和の日) 余呉町中河内・庄野嶺 (報告者: 高田)

下見 4/15 小西

参加者 4名(佐々木、高橋、高田、小西)



ブナ林(ブナ科)



オオカメノキ(ガマズミ科)



ユキツバキ(ツバキ科)

② 第2回 6月28日(日) 奥永源寺・愛知崖 (報告者: 小西) 下見 6/6 高橋、水田、橋木、関澤、

小西、高村(一般) 6/28 参加者 6名(梶谷、高橋、高田、平田(2)、小西)



ジャケツイバラ(マメ科)



オニグルミ(クルミ科)



イイギリ♀(ヤナギ科)

- ③ 第3回 10月25日(日) 近江八幡市・沖島 (報告者; 平田) 下見 10/18 小西(2)  
参加者7名(高橋、橋木、関澤、上萩、平田(2)、小西)



ムベ(アケビ科)



ホンミチ(生活道路)



ホシアサガオ(ヒルガオ科)

- ④ 第4回 11月15日(日) 東近江市・鈴鹿の上高地 (報告者; 橋木)  
下見 10/31 水田、小西 参加者8名(水田、高橋、橋木、関澤、上萩、平田(輝)、小西(2))



落葉樹林が広がる鈴鹿の上高地



オオウラジロノキ(バラ科リンゴ属)の果実



上高地のシンボル  
カツラ(カツラ科)の大木

## ～緑の少年団 指導者研修会/個別指導～

### 事務局より

滋賀県緑化推進会の委託事業「緑の少年団サポート事業」は、令和2年度で7年目になります。緑の少年団が参加できる全国植樹祭が令和4年に甲賀市で開催されることが引き金となり、新規に多数の少年団が結成されて、「指導者研修会」を受講する指導者が増えています。「緑の少年団個別指導」は12月現在、6回実施しています。講師として参加していただいた会員の方は下記の通りです。

【指導者研修】	開催場所	滋賀会講師
8月02日(日)	西部南部地区：びわこ地球市民の森	佐々木建雄、橋木啓子
8月05日(水)	甲賀地区：みなくちこどもの森	小西民人、橋木啓子、高橋優
8月06日(木)	湖北地区：高山キャンプ場	小西民人、下川茂、中川仁男
8月17日(月)	湖北地区：県立きやんせの森	佐々木建雄、下川茂
8月21日(金)	高島地区：ピラデスト今津	下川茂、高橋優
8月27日(木)	中部地区：高取山ふれあい公園	佐々木建雄、橋木啓子
9月06日(日)	中部地区：河辺いきものの森	水田有夏志、小西民人、関澤友規子
9月11日(金)	甲賀地区：鹿深夢の森	小西民人、梶谷栄治、平田明
【個別研修】	少年団名	滋賀会講師
9月26日(土)	守山市：守山市緑の少年団	下川茂、佐々木建雄
27日(日)	同上	下川茂、高田裕美子
10月13日(火)	米原市：山東小緑の少年団	佐々木建雄、小西民人
10月24日(土)	近江八幡市：近江八幡 緑の少年団	佐々木建雄、高田裕美子
10月30日(金)	甲賀市：柏木小緑の少年団	高橋優、梶谷栄治、橋木啓子
11月27日(金)	同上	梶谷栄治、橋木啓子

「緑の少年団サポート事業」の他にも、滋賀会に体験指導の依頼があり、下記の会員の方に協力をいただきました。

開催日	実施内容	滋賀会講師
9月10日(木)	HIS 教育旅行 「吹田第5中学校比叡山体験学習ガイド」 (大雨に見舞われ、行者道トレッキングは中止)	梶谷栄治、佐々木建雄、浅香剛 小西民人、高橋優
11月24日(火)	仰木の里小学校 4年生 やまのこ事前学習の講師 (森と林業の講話と校庭周りの学校林の樹木観察)	小西民人、橋木啓子 下川茂、高橋優

## ～新入会員の紹介～

年末に、森上記子さんが入会されました。自己紹介のご挨拶をいただきましたので紹介します。

森上（もりかみ）記子（のりこ）と申します。

人生のかなり後半をいく者が、どれだけできるかわかりませんが、よろしく願いいたします。子どもがおりませんので、精神年齢はいつまでも子どもで、お恥ずかしいです。

高校の時、球技クラブについていけず、落ち込んでいた自分をワンゲルが救ってくれました。当時、京都の北山に小屋を持っており、北山歩きが大好きでした。その後、一人っ子であったため、母親から、「高い山に行かんといて。」とせがまれ、比良の武奈ヶ岳止まりです。比叡山や愛宕山、大文字山などには、小さい頃から親しみがあります。



自分にとって、元気を与えてくれた森林での活動に、またかかわれるだろうか・・・と、あれこれ探していたところに、この資格にも出会いました。昨年4月から勉強し始め、講習会も中止となる中で、合格をいただきましたので、まだまだ知らないことばかりで・・・。

今も、瀬田の池周辺を日々歩く中、図鑑やネットを調べて、植物や鳥、虫たちの名前や特徴を知って、感激(ﾟдﾟ)している毎日です。

一つひとつ、学んでいかせていただきたく、よろしく願いいたします。

### 編集後記

明けましておめでとうございます。会報第27号（2020年度下半期号）をお届けします。年末に発行を予定していましたが、新型コロナウイルス流行の第3波のなかバタバタして年明けの発行となりました。．．と、なんでもかんでもコロナのせいにする一年でした。

コロナ禍で今年前半の活動や事業が中止になりましたが、後半は「緑の少年団サポート事業」や「FIJ子ども森林インストラクター認定プロジェクト」「子ども水源の森サミット」「秋のブレ植樹祭」などなんとか実施できました。今号で報告できませんでいたが、東近江市委託の「100年後に残したい鈴鹿の森」追加調査も小西さん主導で終了しています。

コロナの第3波が続いていますが、会員の皆さまご自愛ください。森林インストラクターの活動は3密となることが少ない野外活動です。自粛生活のストレスを解消できるように計画していきたいと思います。

（高橋）